Kobe City College of Technology KCCT

2014 年度 Seattle 派遣学生体験記

神戸市教育委員会シアトル派遣に参加して

機械工学科 2 年 B 組　松原 光希

私は、平成 26 年度の神戸市教育委員会シアトル派遣に選抜され、平成 26 年 9 月 26 日（金）から 10 月 2 日（木）までの1週間、アメリカのシアトルで国際交流を行ってきました。6 月に校内選抜を受け 3 名が教育委員会の面接に臨みました。過去の情報や校内の多くの先生に指導を受け、全員の合格を目指しましたが、本校からは私だけが合格となりました。英語力よりも元気さ、積極さが評価されたように思います。市高全体では合計 10 名が選抜され、夏休みに 3 回ほど研修を受け、現地での役割分担も決めました。8 名が女子でしたが例年のことらしく、男子の奮起が期待されます。

伊丹空港から成田空港で乗り継ぎして、シアトル・タコマ国際空港へフライトしました。タコマ国際空港に1時間も早く着いたのにもかかわらず、私たちのホストファミリーは既にウェルカムボードを持って待ってくれていました。とてもうれしく思いました。私のホストファミリーの名前は Eugene（ユージン）Oh という名前です。その車中で Eugene のお父さんがいろいろ話をしてくれるのですが、両手を使って話したり、後ろを向きながら話したりするので、かなり怖い思いをしました。

シアトルでは、「あーこれがアメリカなんだな」と思ったことがいくつかあります。アメリカの食事は1回の量が多く、ご飯の合間に「おやつ食べる？」とか聞かれてもお腹がいっぱいで、ずっと I’m full.と返事していました。2 日目の夜は SEAFCO FEALD に行き、マリナーズとエンジェルスの試合を見ました。国歌斉唱のときには鳥肌が立ちました。試合は、マリナーズが延長 11 回にサヨナラ勝ちし、いい試合でした。

3 日目はマクドナルドに行ってみましたが、ドリンク全サイズ1ドルでおかわり自由でした。アメリカの M サイズは、1 Lくらい入る大きな紙コップでした。4日目には、今回の一番の楽しみだったボーイング社のエバレット工場を見学しました。ボーイング 747、767 および 787 の製造現場を見て英語で説明を受けました。しかし、英語の説明は日本からの付き添いの先生ですら難しいというくらいで、ほとんど何を言っているか分りませんでした。たぶん、専門用語がたくさん出てきたためと思います。技術英語や工業英語の重要性を感じました。製造中のボーイング 787 のエンジンの前で記念撮影ができ、また飛行機の胴体の一部が頭上のクレーンで運んでいるところを見ることができ、機械工学科である私には、大いなる刺激となりました。5日目には、ユージンが通うトーマスジェファーソン高校に一緒に登校しました。寝ている生徒は一人もおらず、むしろ積極的に質問をしていました。本校の学生とはかなりちがっていました。と同時に、カウンター受け入れしたときに恥ずかしいなと思いました。

私は、シアトルに派遣されるまで、完璧な英語を喋らないと！ とか、通じない英語を喋って困らせたりしないかなとか思っていましたが、ホストファミリーを始め周りの関係者は、私の英語を理解しようとしてくれましたので、文法や発音は二の次にして、とにかくしゃべることを心がけました。単語 1 つだけでも、I see.とうなずいてくれました。コミュニケーションとは何かを、肌で感じることができました。

今回のシアトル派遣でさらに海外に興味を持つことができましたし、たくさんの良い友達に出会えました。このような機会を与えてくださった神戸市教育委員会、および事前研修や引率をして頂いた団長の清家先生、引率の植田先生に感謝します。また、本校の国際協働研究センターの先生方や担任の柳生先生にお礼申し上げます。11 月 2 日（日）から Eugene がアメリカから来て、約 1 週間、私の家にホームステイしますので、精一杯の「おもてなし」をしたいと思っています。

国際協働研究センターのページには他にもホームステイ受け入れの体験記なども掲載されていますので是非ご覧下さい。
http://www.kobe-kosen.ac.jp/kokusai/#taikenki